

しょう しん しょう めい
笑進笑明

<校訓>



・学ぶ力
・働く力
・正す力

平群中だより
編集者:吉迫隆志
NO.9
令和5年10月6日



2023 体育大会

“感動”をありがとう!

9月28日(木)、爽やかな秋晴れに恵まれ、無事に体育大会を終えることが出来ました。

オープニングの開会式から最後の閉会式、片付けに至るまで、みんなの頑張りに「ほんとに素直で、すごい生徒達だなあ～」と感じながら、とても嬉しい気持ちでいっぱいになっていました。開会式で体育大会には、「魅せること」「競うこと」「創ること」の3つの要素があるという話をしました。



「魅せること」

観客席で見てくださっていたある方が、こんな話をしてくれました。

「久しぶりに中学校の体育大会を見ましたが・・・中学校の体育大会っていいですね。迫力あるし、生徒のみなさん一生懸命だし、見ていて気持ちがいいですね～」と笑顔で話してくださったのです。このような私たちにとって嬉しい言葉をかけてくださったのが、お一人お二人ではなかったのです。

プログラム最後の演技、3年生「平中ソーラン」での一コマ。3年生が入場前で待機している時、3年生一人の男子生徒がみんなに気合いを呼びかけたところ、全員が声をあげ、拍手が起こったのです。とり肌がたちました。私が本校体育教師であった頃と同じシーンが一瞬でよみがえりました。そして、木村くんが打ち鳴らす「和太鼓」の響きに呼応し雄叫び(おたけび)をあげながら走って入場していく後ろ姿を見てとても感動を覚えました。



3年生の頑張り・・・素晴らしかったです。この3年生の頑張りには、1・2年生がそのまま受け継いでくれることを、確信できた体育大会でした。みんな、絶対に忘れないでください!

「一生懸命は、人の心を魅了させる」!!!

「競うこと」

本校の「綱引き」は伝統的にすごいことは知っていたのですが、予行での様子を見て健在だなあ～と再確認しました。迎えた本番は、さらにヒートアップしたものでした。全ての学年で譲れない戦いが繰り広げられました。綱がほぼ中央付近で左右に少しだけ行ったり来たりする熱戦が多かったです。全ての生徒が集中し、全力を出し切って戦う熱気を感じていました。その他の種目でも、どのクラスをどの角度から見ても、力のみなぎる表情ばかりでした。すべてにわたって、誰一人力を抜いている生徒がいない! ほんとにすごい。素晴らしい。これがめちゃくちゃ大事なことです。勝負には必ず「勝ち」「負け」があります。だれでもやる以上は勝ちたいと思ひ頑張るに違いありません。でも、みんなの参加意識は、単に勝ちたいだけじゃないな・・・もっと大きな目的があるように感じていました。「*For the Class*」・・・久しぶりに体育大会を見て思いました。一人ひとりの頑張りの結集が、何か大きな事へつながると信じて、走る、投げる、引っぱる。



この「思い」こそが、本校伝統の体育大会の原点だということであらためて強く感じました。



「創ること」

生徒の皆さんには、とてもすごいパワー・エネルギーがいっぱいありますよね。「魅せること」、「競うこと」で話したことに加え、体育大会を運営する力。アナウンス、出発、決勝、観察、記録、準備、救護・・・全ての仕事に迅速(じんそく)かつ正確で誠実な仕事ぶりをみせてもらいました。全ての役割で活発に動きまわり、責任を果たしていく姿。こんな「当たり前を、やり遂げる!」このことも大切な伝統としていきましょう。

【感動の応援の姿】

あの光景を思い出ただけで、またジーンときてしまいます。前半は遠慮がちでしたが、どの競技においても、学年関係なしで声援を送っていましたね。色別で工夫されたかけ声や学級旗、手拍子、歓声、声がかかるぐらい大きな声で、全身を使って応援していました。

さらに発見、自分の競技が終わったら、すぐに応援席に戻り、色別一体となった応援体制に入っていましたね。自分たちの場所に帰り応援する姿はとても「あっぱれ」で、競技に勝るとも劣らない光景を創りだしていました。みんな、ありがとう!これが心のこもった自分たちで創りあげる応援だという姿をしっかりと見せてもらいました。最後に、もうひとつ忘れられないのが、閉会式での君たちの拍手。成績発表があり、その後の表彰式、表彰を受ける色別やクラスへの拍手。私は前にいながら君たち応援席から、いつまでも続く拍手の温かさがとても心地よく感じていました。全員で自分たちへの拍手を送ったとき、この体育大会がいかに充実したものであったかを君たち自身が一番感じ取ってくれているんだなって、かみしめていました。文化祭に続き「大きな、感動をありがとう!!!」